

《お知らせコーナー》 お問合せは、中津市社会福祉協議会まで！
電話：0979-23-2095

出会いとトキメキの夏が来た！！ ～令和4年度 夏のボランティア体験月間～



昨年度の様子

今年も恒例の「夏のボランティア体験月間」を実施します。まだボランティア活動をしたことがない方、この機会に一步踏み出してみませんか。忘れられない体験があなたを待っています！

【体験期間】 7月20日～8月31日

【申込期間】 7月1日～7月31日

【対象】 小学生以上

【受入れ先】 児童福祉施設、高齢者施設、障がい者施設、サロン他



あなたも市民後見人になりませんか？

社会福祉協議会では、第6期市民後見人養成講座の受講者を募集しています。

「市民後見人」とは、認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が十分でない方が、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、身近な市民の立場から後見活動を行う人のことです。

本講座は「市民後見人」になるために必要な心構えや知識について学びます。

○開催期間 9月～12月(全12回)

○開催場所 中津市教育福祉センター他

○申込期間 6月27日(月)～7月29日(金) ※受講料は無料です。



ひきこもり研修会のご案内

社協では、ひきこもり・不登校についてそれぞれの立場から「つながる」を意識する研修会を行います。 ※参加無料です。

○日時 9月18日(日) 13時～16時20分

○場所 中津市教育福祉センター

○対象 ひきこもり・不登校の状態にある人や家族、支援について関心がある方、相談支援機関等

○申込期間 8月1日～定員になり次第
(先着80名)

※参加無料です。



食品の寄付をお願いします！

社協では毎月25日を **nico**(ニコ)の日として、フードドライブを行っています。今月も皆様の温かいご寄付をお待ちしています。

○日程 7月25日(月)

8月25日(木)

9月26日(月)

※受付は9時から17時までです。

○集めているもの…未開封で賞味期限まで2カ月以上ある食品、レトルト、飲み物、お米等

○場所…中津市社会福祉協議会の各支所



ボランティア・市民活動情報紙

ぺんぎん



No.255

2022年7月発行

《発行》 中津市ボランティア・市民活動センター（中津市教育福祉センター内）

〒871-0021 大分県中津市沖代町1-1-11 TEL 0979-23-2095 FAX 0979-24-7682

《ホームページ》 <http://www.nakatsu-s.or.jp/> E-MAIL volunteer01@nakatsu-s.or.jp



日本の「言葉」や「文化」を 伝えることで、支えたい！

日本語教室きらきら



「日本語教室きらきら」では、13名のボランティアの方々が、中津市や近隣の市町に在住する外国の方に対して日本語や日本の文化などを教えています。毎月2回（年24回）如水コミュニティーセンターで開催しており、現在は1回あたり10～15名程の方が参加して学習をしています。

教室は2014年から始まっていますが、はじめのうちは当時の和田公民館で開催されていました。主に技能実習生を対象として、日本語能力試験を受けるためのサポート

として日本語を教える取り組みを続けていますが、現在では「コミュニケーションがとれない」「日本語の読み書きが苦手」といった技能実習生以外の方の参加も増えているそうです。



学習の様子



この日は初参加の方もいました

教室開催中はそれぞれの学びの内容やレベルに合わせてグループを分けています。グループごとにボランティアの方が1名ずつついて、テキストやホワイトボードなどを使って教えていきます。教える際にも言葉の壁はありますが、難しい言葉や単語などはスマートフォンの翻訳機能などを活用し、工夫しながら丁寧に伝えていきます。時折笑顔の見える和やかな雰囲気の中、受講されている方はメモを取ったりうなずいたりしながら熱心に学習に取り組まれていました。



代表の井上さん

ここに来られる皆さんはまじめな方ばかりで、一生懸命勉強に取り組まれています。私たちも単に日本語を教えるというよりも、日本での生活を支えたいという想いで続けています。職場でのコミュニケーションができる人、できない人と様々ですが、このような場で日本語を学んでもらうことで、少しでも役に立てればと思います。私たち自身も楽しみながらやっており、こちらが元気をもらっています。



「やってみたい！」を「できた！」に♪ ～障がい者ミニデイサービス「鈴の音(すずのね)」～



5月、花の寄せ植えをしました。

障がいのある方のミニデイサービス「鈴の音」が、毎月一回開催されています。平成10年にボランティアグループからスタートし、その後社協が引き継いだ「鈴の音」は今年で24年目。「やりたいことを、障がいのある人たちが自分たちで決める」をモットーに、毎回のプログラム内容から当日の準備まで参加者が主体となって運営しています。現在障がいのある方、ボランティアを合わせて19人。自分では難しい作業はボランティアが手伝いながら、みんなで楽しく和やかな時間を過ごしています。



誕生日にはお花のプレゼントがあり、クリスマス会や外での活動など季節を楽しむ活動もあります。これから色々な行事を取り入れてやっていきたいと思っています。もっと参加者が増えるといいな。（会長の村上さん）



鈴の音でのボランティアを長年続けていて、障がいのことをいろいろと知ることができ、お互いの気持ちも通じていて、とても楽しいです。（ボランティアの田中さん）

<鈴の音情報>

日時：毎月第3水曜日 10時～13時

※お弁当代は実費となります。

会場：中津市教育福祉センターほか
「鈴の音」では新規参加者を募集中！

【ご興味のある方はコチラまで♪】

中津市社会福祉協議会 地域福祉課
0979-23-2095



「こころ♥」を育てる福祉教育 ～わいわい福祉ひろば～



「聴覚コース」の様子

「わいわい福祉ひろば」は、市内の障がいのある人や高齢者、またボランティア活動をしている方々が「タレント」として小学校に出向き、児童や地域の方々とともに、わいわいふれあいながら学習する出前型の福祉講座です。平成6年にスタートし、現在5つのコース（視覚・聴覚・肢体・高齢・認知症）に分かれており、障がいのある方や高齢の方の生活の様子を伝えたり、（✓）

疑似体験をしたりすることで、お互いを理解し思いやりの心を育むことを目的としています。

中津市内に「福祉のこころ♥」が広がっていくように、子どもたちはもちろん、大人の皆さんを対象にした「ひろば」も実施していきたいと思っています。



「視覚コース」の様子



<子どもたちの感想より>

- 障がいがあっても、かわいそうなんてことはないことが分かりました。
- 障がいがある人も私たちと同じように暮らしているけれど、少し大変なこともあるので、困っている人に会ったら手助けできるようになりたいです。
- 聞こえない人と会ったら、口話や身振りでお話をして友達になりたいです。



あんなこと、こんなこと、中津をもっと見つけよう！ ～中津の郷土史を語る会～

中津市内には観光ボランティア団体が6つあります。今回はその中でいちばん歴史が古い**中津の郷土史を語る会**（以下、「語る会」）を紹介します。

「語る会」は1976年5月に発足しました。以来毎月開催している市民向けの郷土史講座は、今年の7月で509回目となります。会ができたきっかけは、「城下町中津をみんなに知ってほしい」「故郷を好きになってほしい」という思いからで、発足から年月が経ち会員の入れ替わりもある中、この思いは現会員にしっかりと受け継がれています。



郷土史講座の様子



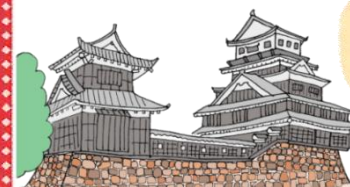
毎月の定例会の様子

現在の活動内容は郷土史講座の開催のほか、観光で訪れた方のガイドや市内の小学6年生が校外学習の「まちなみ探検」をする際の史跡案内などです。聞いた人の心に残る情報を分かりやすく伝えるため、毎月の定例学習会では中津の歴史に関する様々な話題を共有しています。



松尾会長

私は「ずっと住むんだから、もっと中津のことが知りたい」と考えて、会に入りました。中津は歴史があり、良いところや面白いことがたくさんあります。歴史って教科書の中だけの話ではないんですよ。実は誰もが知っている歴史上の出来事が中津にも関係あったりするんです。歴史の裏話を知ると、街歩きがもっと楽しくなりますよ。特に子どもたちは将来中津から出て暮らすことになるかもしれないが、どこにいても故郷を語れる人でいてほしいですね。



中津の郷土史を語る会では、新規会員を募集しています！
城下町を探検して、中津を再発見してみませんか？
興味のある方はお気軽にご連絡ください。

<お問合せ> 中津の郷土史を語る会 松尾さん
電話：090-1871-3470

初心者
大歓迎！



「想いをつなげるお手伝い」

「視覚に障がいのある人に読んでもらうために、音訳してくれるボランティアの人はいますか？」という相談が、ある日、ボランティアセンターにありました。お話を聴くと、相談者の方が作られた子ども向けの「平和についての本」を知り合いの視覚障がいの人に読んでもらいたいという相談でした。早速、市内で視覚障がいの人と一緒に活動するボランティアグループ「アイメイト中津きさらぎ会」の音訳をされている方に相談したところ、快く引き受けてくださり、CDにしてくださいました。相談者の方が出来上がったCDを取りに来られた際、亡くなられたお父さんが視覚に障がいがある中で仕事を一生懸命され、自分たちを育ててくれたというお話をしてくださり、音訳して下さったボランティアの方々にとっても感謝され、お手紙を預かりました。その後、「きさらぎ会」からもお返事を出されたそうです。想いがカタチになるまでにはいろいろな人の想いや協力があり、その想いを理解し、協力を惜しまない心、そんなボランティアの基本の「き」を実感した出来事でした。

